歯周病罹患歯の長期保存の要件と、 これからの歯科医療への対応

有賀デンタルクリニック
有賀重則

The Requisites for Longevity in Periodontally Involved Teeth
and Approach to Future Dentistry
Ariga Dental Clinic (Tokyo)
Shigenori Ariga

臨床を始めて43年もたつと、長期経過観察症例を多く持つことになる。長期臨床例を多く持つということは、それだけ患者さんが長く通って下さったわけで、たいへん有り難いことだと、いつも患者さんや、代々のスタッフに感謝している。

長い臨床の間、その時期その時期に、患者さんはよく協力して下さい、私自身も自分の持っている知識や技術をフルに活用し、また同時に医療人としての人間性を高める努力をしてきたつもりではいるが、思うような結果が得られないことがある。

これは、単に口腔の状態だけではなく、院長の医療姿勢、技術、医院の診療形態などの医院側の因子（医院の受入れ体制）、今話題の宿主のリスクファクターをはじめとする患者側の因子、天災、人災などの不可抗力な因子、そして医療制度や、社会経済的因子などの多くの事柄が関連しているからである。

本来、研究、研修をする目的は、わかっていること、わからないこと、即ち明、不明を明らかにすることから始まり、臨床の目的は、自分の持っている知識、技術を応用し、患者さんに害を与えないように、overtreatment, undertreatment、言葉を換えて言えば、commission（やり過ぎ）、omission（手抜き）を最小限にすることにある。我々臨床家はいつもこの狭間の中で悩んでいるわけで、総合力を持った経験豊かな医者ほどそのゆらぎが少ないわけである。もちろんこれらは歯周治療の基本知識、基本技術があつてのことである。

そこで今回は、多くの歯周病の長期経過観察症例を呈示し、歯周治療の基本から、最近の考え方や方法を考慮に入れて、歯周病罹患歯の長期保存の要件を探り、同時に、超高齢社会における歯科医療への対応を考えてみたい。

1. 初診—大切な最初の出会い
2. 問診と診査—重要な問診、診査の技術
3. 患者の問題点と特徴（キーポイント）—カテゴリー化（categorization）
 - (1) 問題点と時期
 - (2) 問題点における医院側、患者側、不可抗力な因子
 - (3) 問題点と治療の段階および内容
 - (4) 歯周治療からみた予後、咬合状態からみた予後①1本の歯の予後②歯列弓全体の予後
 - (5) 症例の総合的な把握—統合（integration）
 - (6) new technology導入の検討
 - (7) 診断、治療計画、スケジュールの立案—個別化（individualization）
 - (8) 予後の推測（不良、中等度、良好）
 - (9) リコール間隔の決定
4. 患者とのコミュニケーション、患者へのモチベーション、患者を中心としたチームワーク、スタッフ教育と啓発的な環境作り
5. 患者のカウンセリングとインフォームドコンセント
6. 予防、治療、健康指導、メインテナンスを軸にした診療形態
7. 健康指導医（生活指導医）としての歯科医師、人生の相談相手としての歯科医師の役割—感染症であり、生活習慣病である歯周病の治療には、炎症のコントロールと同時に、禁煙指導、食事指導などの生活習慣改善指導（リスクファクター改善指導）が不可欠。
8. 歯周病の先天的、後天的、環境的リスクファクターに対応すると同時に、医科と協力して、多因性全身疾患の治療も大切である。
9. 患者への様々なアプローチによる歯科医療への認識度の向上とコンプライアンスの改善
10. 患者の役割、医療担当者の役割の明確化と分担
11. 患者の健康、福祉に真に役立つ継続した研修と、医原性疾患を無くす努力
12. 予防こそ最良の治療であり、歯周病もできるだけ初期に治療すること
13. 歯科的健康と全身の健康の関係を疫学的に示し、対社会的な啓蒙と活動が必要
14. periodonticsからperiodontal medicineへ、dentistryからoral medicineへ、dentistからoral physicianへと脱皮 まだ多くの要件と対応があるが、症例を通して発表したい。